

3年度 予算

一般会計予算額は 195億3,100万円

— 前年度比24億4,400万円(11.1%)減 —

予算特別委員会での主な質疑

Q 国民体育大会開催に向けた矢神飛躍台の修繕工事費、総額4億円の費用に対し、各助成の詳細は。
A 内訳は、実施設計業務と改修工事を含めた分で、スポーツ振興くじ助成金が約3億円、県の補助金が約5千万円。市の負担は約5千万円である。

Q 東京オリンピックピックホストタウン事業で、感染予防対策などの負担で受け入れを断念した自治体もあるが、当市の状況は。
A また、ルワンダの新型コロナウイルス感染状況はどのようになっているのか。
Q ルワンダ大使館とは、密に連絡を取っており、受け入れ態勢について協議を進めている。ルワンダの新型コロナウイルス感染状況は、1月頃にロックダウンの状況であったが、現在は7日間の平均感染者数が96人で落ち着いた状況である。
Q マイナンバーカードの利便性が増えてきているが、普及が進んでいない。市の広報などにマイナンバーのサイトへアクセスできるQRコードを掲載しては。
A 普及率は2月14日時点で23・1%である。広報へのQRコードの掲載については、検討する。窓口で職員の説明を聞きたいという方も多いことから、年齢に合わせて手続の方法で今後も手続の機会を設けて普及に努める。

令和3年度各会計別の予算総額(1万円未満四捨五入)			
一般会計		195億3,100万円	
特別会計	国民健康保険	31億9,074万円	
	後期高齢者医療	2億9,248万円	
企業会計	水道事業	収益的収入	5億8,467万円
		収益的支出	5億5,517万円
		資本的収入	3億 98万円
	下水道事業	資本的支出	6億2,989万円
		収益的収入	11億2,546万円
		収益的支出	10億7,191万円
	病院事業	資本的収入	4億6,334万円
		資本的支出	9億2,073万円
		収益的収入	14億 454万円
		収益的支出	16億9,778万円
		資本的収入	1億4,787万円
		資本的支出	1億4,971万円

令和3年度の予算は、3月9・10・15・16・17・19日の6日間、予算特別委員会を開き、審査しました。同委員会では一般会計と2特別会計、3企業会計を原案のとおり可決すべきものと決定。第1回定例会最終日の3月23日本会議で全て原案のとおり可決され、3年度の予算の使い道が決まりました。ここでは、予算特別委員会での質疑や3年度の主な事業などを紹介します。

Q 畜産農家の経営を支える上で、牧野での受胎率を上げることが重要である。年々低くなっている要因と長期不受胎牛自然交配試験事業費補助金について伺う。
A 受胎の有無を調査した結果、現在の不受胎牛は約30頭ほどである。七時雨牧野で受胎率を上げるため、JAが県から借りる種雄牛を自然交配試験事業費補助金で助成する。

Q 森林振興事業の民有林森林整備事業かさ上げ補助とは。
A 民有林の再造林や間伐が進むよう、継続して行っている補助事業である。

Q 新規就農者等支援事業にある、経営開始型事業の内容と状況を伺う。
A 市の単独事業で、新規就農者への支援をして実績を積み上げてもらい、経営開始型に移行していくものである。現在の支援事業で1名、経営開始型は1農家が受けている。今年度は4経営体が申請しており、継続して支援をしていく。

Q 安代りんどう品種海外活用事業のルワンダにおける生産計画の内容は。
A りんどう苗の増殖をルワンダで行い、生産と販売をヨーロッパで行う計画である。

Q 花き品種開発事業にある、人工気象器購入費について伺う。
A 花き開発センターの室外にある1995年製の人工気象器の修理が不可能となり新たに購入する。



再造林された山林

林業振興事業

【予算額】1億2,700万円

【事業内容】 民有林の森林整備事業などに対するかさ上げ補助により、森林資源の循環利用の促進を図る。



七時雨牧野留の沢の草地盤整備

畜産振興事業

【予算額】1億5,451万円

【事業内容】 畜産経営体の経費負担を軽減し、所得の向上を支援する。



八幡平市合同研修会

雇用促進対策事業

【予算額】1,140万円

【事業内容】 市内企業と求職者のマッチングを行う「まちの人事部」を運営する。



ワクチン接種関係資料

予防接種事業

【予算額】1億8,687万円

【事業内容】 新型コロナウイルスの感染予防・発症予防・重症化予防・感染症のまん延予防を目的に予防接種を実施。



統合保育所の建設状況

統合保育所整備事業

【予算額】6億7,307万円

【事業内容】 保育環境のニーズにあったサービスを提供するため、松野保育所と寄木保育所を統合し移転新築する。



ルワンダ選手団

東京オリンピックホストタウン推進事業

【予算額】1,063万円

【事業内容】 ルワンダ選手団・関係者と文化交流事業を実施し、市民の国際理解を深める。

予算特別委員会での主な質疑

Q 大更駅前周辺に賑わいをつくるという事業は、観光客への対応という視点から見ると、顔づくり施設にどのように反映されたのか。

A 建設を予定している顔づくり施設は、一階に観光案内所機能を設けて職員を置き観光案内をする予定である。また、大更駅前西側の整備した土地に商業者を集め、街並み全体で観光客をおもてなしするという考えである。

Q 大更駅前顔づくり施設の駐車場用地費に1,522万7千円を見込んでいるが面積と坪単価は。

A 面積は544平方メートルで、坪単価は約9万2千円である。

Q 都市計画道路大更駅前整備事業について、店舗数が11戸とあるが、今後の見通しは。

A 区画整備区域内に商業施設を予定しているが、まだ換地および土地の形が決まっていない。今後、商工会の協力を得ながら募集したいと考えている。

Q 住民要望の多い道路軽舗装整備事業であるが、今後の見通しと優先順位はどのようになっているのか。

A 令和2年12月末97路線の要望がある。財源は一般財源だけなので、他事業と調整をとりながら、本年度は5路線を計画し、優先道路の調査を行い早急発注に努める。

Q 文化庁から日本遺産に認定された、安比川流域の漆文化について、二戸市と共同で運営する協議会の現状は。

A 市民に周知を図るため、PRとしての観光案内や説明看板を企画している。漆室の保存も補助事業を使ってできないか検討し、文化庁に要望している。

Q 民間から選ばれた方々の報告会の現状は。

A 浅沢地域振興協議会から、漆室の保存や管理が大変なので移設できないか要望されている。博物館や漆器工房付近への移設を地元と協働し、文化庁に要請する。

Q コロナ禍で障がい者の工賃の落ち込みが危惧される。ふるさと納税の返礼品の発送に携わってもらうなど、市は福祉支援の拡充に努めてきた。工賃の実態は。

A 障がい者福祉のB型作業所の工賃は、昨今のコロナの状況にもかかわらず、市内3つの作業所それぞれ頑張っていたが、それほど大きく落ち込んではいない。

Q 今後の障がい者福祉の課題は。

A 国が進める施設入所者などの地域移行で、一緒に暮らせる受け皿づくりが重要。

Q 市立病院では待合室の患者を名前で呼んでいるが、プライバシーの問題もあることから、番号で呼ぶようにできないか。

A 過去に番号札を渡していた時があったが、紛失などの問題が多発した。今後の検討課題としたい。

討論(一般会計・3月23日本会議)

【反対討論】 高橋悦郎議員(日本共産党)

新年度予算編成について、市長は歳入について市税収入の減、普通交付税の減などから各種基金からの繰り入れが避けられない。歳出については、社会保障費の増、借金の償還金の増、公共施設の維持管理費の増など厳しい財政運営を述べられた。このようなかで、22億円を投資する大更駅前顔づくり施設建設が議論された。この施設には、子育て支援施設と図書館が入るとされている。この施設建設について、アンケート調査が行われたが、顔づくり施設を求める市民の声は少数であった。今の市財政を見ると、借金の返済額が年々増加している。一般財源に占める借金の返済金の率は、令和元年度で県内2番

目に高い自治体であるが、その後も返済金の率は上がり続けている。財政の硬直化が進行していると言わざるをえない。このことは、市民要望が多い市道整備や市道軽舗装の予算を減らし、いまだに完成できない大更東地区の公共下水道整備をさらに遅らせている。また、子育て支援策で要望が強い盛岡市への通学定期支援だが、保護者の負担が高額なために盛岡市などに引越すということが起こっている。人口減少の中、あつてはならない問題である。今年度予定していた、大更駅前顔づくり施設の実施設設計を1年延期したが、まさに財政が厳しいことを反映している。4階建て22億円の施設建設は、身の丈に合った計画に見直すべきである。

【賛成討論】 関治人議員(八起会)

令和3年度予算は一般会計総額195億3100万円、過去5年間で最も低い数字となっている。予算が抑えられた主な要因は、繁殖育成センターおよび大更駅前線など整備事業の減である。自主財源である市税が29億576万円と昨年度に比べ4.4%減少したが、これらはコロナによる観光産業への影響や人口減少による、社会が抱える最も困難な問題が大きな要因と考えられる。市債発行見込額18億6620万円は、昨年度と比べ約16億4千万円の減で、率にして約46.8%減少している。市債元金償還見込額約30億2600万円も大きく下回っている。結果、プライマリーバランスは約11億6千万円

の黒字となっており、これは昨年度予算から比較して市債発行額抑制を掲げ、次世代へ負担を残さないという強い意思が感じられる。財源確保が難しくなる中、児童・障がい者・高齢者などの社会保障費や市債の返還金など多額の歳出が見込まれる。このような現状において、統合保育所整備、子どもや寡婦医療費助成の拡充、ワクチン接種事業、高齢者保健介護一体化事業、大更駅前拠点事業などの新規事業が計画されており、総合的に市民生活に直結する事業内容になっている。過疎債などのさまざまな有利な起債を利用し、限られた財源で効果的かつ効率的に配分されている内容であり、高く評価できる。今後、市民のために計画的な予算執行を望むものである。



プライバシーが問われる待合室

病院事業 (建設改良費)

【予算額】 466万円

【事業内容】 安心安全な医療の提供で健康が保持され、健やかな生活が送れるよう、医療施設の機能を維持する。



B型就労施設「ポパイの家」

自立支援給付事業

【予算額】 8億3,880万円

【事業内容】 障がいのある人に障がい福祉サービスや自立支援医療補装具の給付などを支援する。



保存のため移設が待たれる漆室

文化財保護事業

【予算額】 297万円

【事業内容】 活力に満ちたまちづくりと、学習機会の充実のため、市指定文化財などの保存保護および継承を図る。



水洗化リフォーム後のキッチン

住宅水洗化
リフォーム支援事業

【予算額】 350万円

【事業内容】 住宅の水洗化リフォーム(市の排水設備事業指定工事店の施工)を行う際、対象工事に助成する。



本年度の計画は5路線(残は92路線)

道路軽舗装整備事業

【予算額】 1,000万円

【事業内容】 住民が利用している市道および生活道の未舗装路線を軽舗装する。



駐車場予定地(旧西根森林事務所跡地)

大更駅前拠点施設整備事業

【予算額】 1,523万円

【事業内容】 大更駅前顔づくり施設の駐車場用地として、旧西根森林事務所跡地を取得する。